

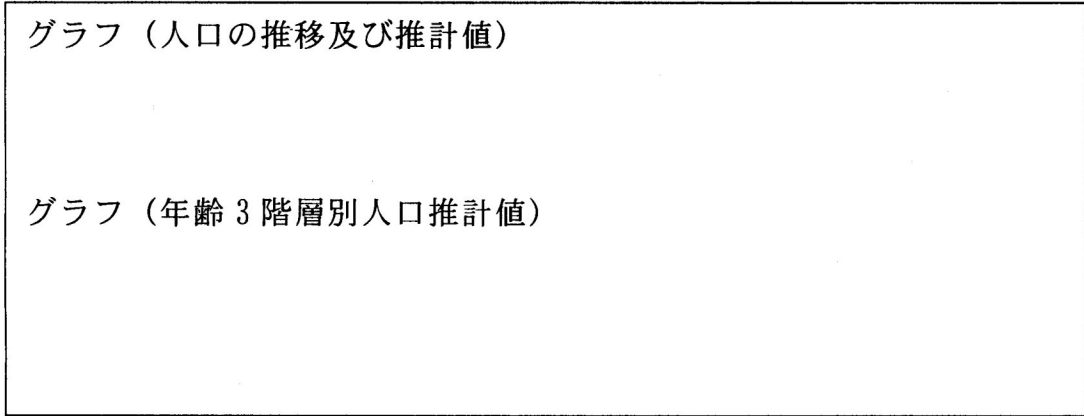
08.12末に  
人口推計表

### 3 将来指標（基本指標、フレーム）

- ・将来都市像を目指してまちづくりを進めていく上で、将来のまちの基礎となる基本フレームとして、目標年度における将来人口と、まちの構造・骨格及び土地利用の方針を示します。

#### （１）人口の想定

- ・各年 10 月 1 日現在人口（国勢調査人口）をもとに、計画年度における本市の人口を推計すると、次のようになります。



	平成 14 年 (2002 年)	平成 19 年 (2007 年)	平成 24 年 (2012 年)	平成 29 年 (2017 年)	平成 34 年 (2022 年)
実績・推計値	54,856	63,428	68,059	71,755	74,356

- ・推計結果に基づき、平成 32 年度（2020 年）における本市の人口を約〇人と想定します。
- ・平成 32 年度（2020 年）における年少（15 歳未満）人口比率を〇％、生産年齢（15～64 歳）人口を〇％、高齢（65 歳以上）人口比率を〇％と想定します。

※1  
全国的には人口減少が既に現実のものとなっていますが、栗東市では最近も人口の増加が続いています。計画期間中もこの傾向が続くことが想定されます。

※2  
ただ、直近のデータである平成 14～19 年については、JR 栗東駅前の整備効果に伴うマンション立地による影響が大きく、今後はここまでの増加ではなく、通常の水準を取り戻すことが予想されることから、新たなデータを把握できた段階で、改めて検討（推計）していくものとします。

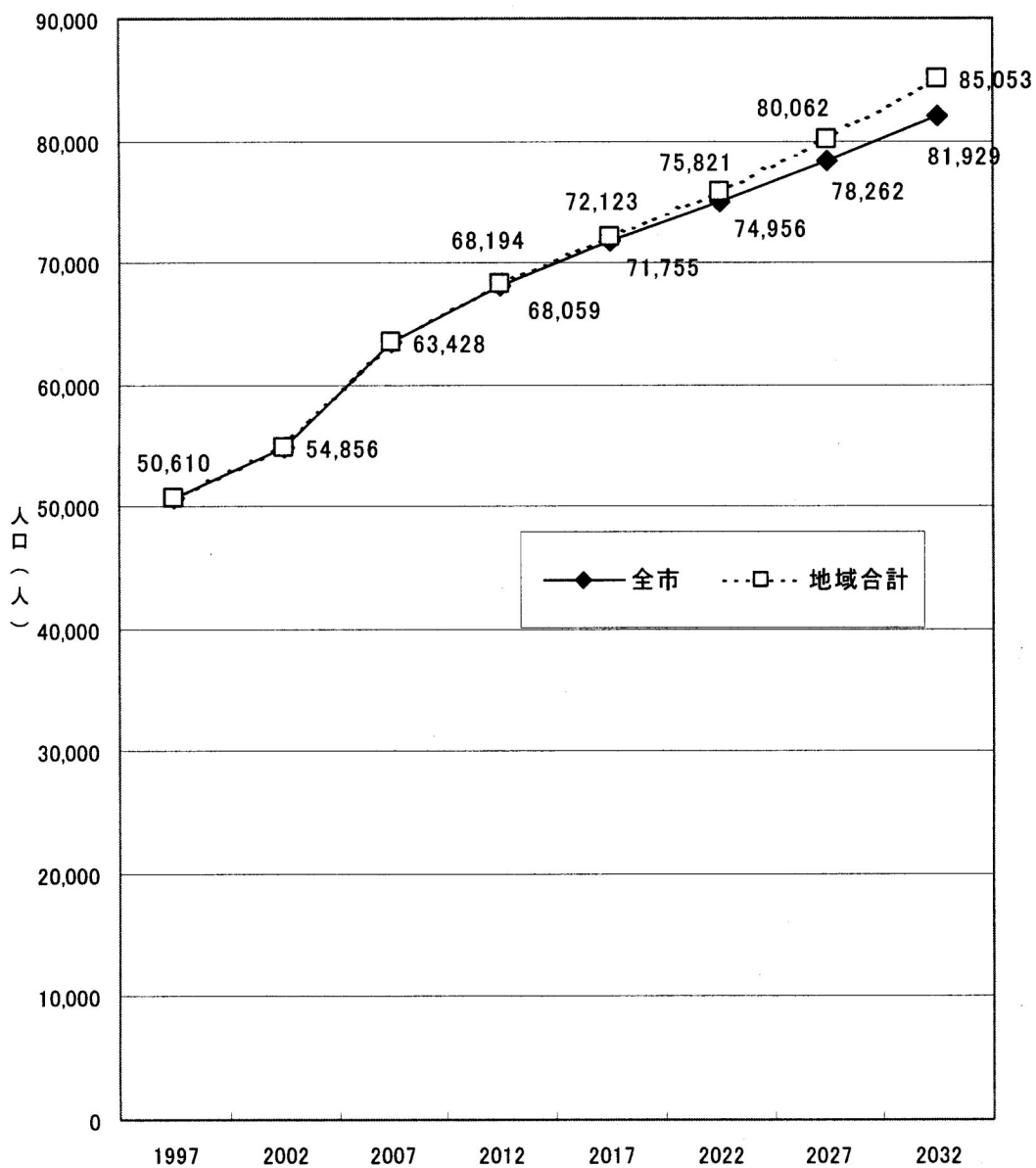
(参考資料) 栗東市の将来推計人口

	平成 9 年	平成 14 年	平成 19 年	平成 24 年	平成 29 年	平成 34 年	平成 39 年	平成 44 年
	1997	2002	2007	2012	2017	2022	2027	2032
人口実績	50,610	54,856	63,428					
全市推計				68,059	71,755	74,956	78,262	81,929
地域合計				68,194	72,123	75,821	80,062	85,053

実績値

推計値

将来推計人口



## (2) 土地利用の想定

- ・将来都市像を目指してまちづくりを進めていく上で、目に見えるまちの姿をどのようにつくっていくのか、目標年度における都市機能（施設や拠点の配置、それぞれを結ぶ軸など）のあり方と、土地利用の方針を示します。

(想定される項目)

- 都市の機能配置  
居住、商業、産業、行政、農業、自然などの機能の配置のあり方
- 都市の軸  
各地域の拠点や交通結節点、集客施設、近隣都市を結ぶ都市軸のあり方
- 土地利用  
住宅、農地、森林緑地、新たな開発など、面的な土地利用のあり方

### 【土地利用や都市構造に関わる審議会意見等】

- 市街化の方向
  - ・市街化区域の拡大を志向するものではないことは共有できる。
- 都心の形成
  - ・今後の土地需要にどう応えるか。例えばコンパクトなまちをつくるなら、高層マンションが集積し、市民も集まり、市外の人もそこを目指して栗東を訪れるような都心地域を形成していく必要がある。
- 地域間交流
  - ・市内の地域同士の交流が弱く、コミュニティが脆弱な要因のひとつとなっている。地域間の交流・連携を活発化する基盤が必要。

※

想定される項目としては上記のようなものがありますが、今後の将来都市像や人口の想定、計画・事業などをもとに、今後、検討していきます。